

2020年問題をぶっ飛ばそうぜえ

夏祭起太郎

1 2020年問題って？

運動界隈で、「2020年問題」という言葉を耳にする。それが、どんな問題かについて、公式見解があるわけでもないが、概して、安倍政権が繰り出すトンデモな政策を一連の国家改造計画として理解し、その完成予定時期が2020年あたりと設定されていると見て、これは何とかせにゃならんのかなというふうな気分である。人によっていろいろだが、ほぼ意見が一致しているのは、安倍内閣(第1次からか第2次からか)発足以降のものを中心に、天皇の元首化、人々の人権制限・政府の権力の強化、自衛隊の国軍化(その実は米軍の隷属部隊化)の3本柱であり、これは、①国民主権は否定したいな、基本的人権なんて尊重しないよ、戦争、いいね！ということで、すなわち現行憲法の3大基本原理の否定なので、その完成記念事業として憲法改正、そして、それを大々的にPRするイベントとして、天皇代替わりと2020年東京オリンピック・パラリンピックというあたりか。

2 天皇元首化

今回の「退位特例法」制定過程で、憲法上非常に疑わしい公務(政治的な思惑による内外の慰問、慰霊旅行、各種イベント出席)を天皇がしなければならないというインチキな前提で、その役割が果たせるように年齢的に衰えたら息子に代を譲らないといけない。「築地魚河岸三代目」か？ ワンマン個人事業主のようなアキヒト天皇の「お言葉」が、あつという間に、詔(みことのリ=天皇の命令)扱いとなつて、承認必謹(ショウショウヒツキン:天皇の命令には必ず従え)一色、で、談合により法律成立だ(しかも、よりによって共謀罪法案通すか、会期切れかという時期に、ほぼ全会派(自由党が党として棄権したのみ)賛成というオイオイな国会の人々...)。思い出すのは、共謀罪法を通すためのニセの理由として、アベ



が持ちだしたのが「オリンピックをするために・・・」であったこと。そのオリンピックでは、規定により開催地のある国の元首が開会宣言をすることになっている。1964年の東京オリンピックは、ヒロヒト天皇が元首じゃないのに元首ヅラをして開会宣言を強行した(第2次世界大戦終結から20年足らずしか経っておらず、ヒトラー、ムッソリーニと並び称された悪辣敗戦国責任者がのうのうと生きていること自体十分意表をついていたのに、オリンピックの開会宣言までしてし

まったということで、主にヨーロッパ方面でブーイングの嵐だった。)。さらに代替わりが進むと、戦争責任についての意識が薄れ、後ろめたいところのない、「堂々とした元首」としてふるまうことが懸念される。なお、ナルヒトが新天皇になると、天皇誕生日が2月に移って、2月が「建国記念日」と「天長節」が近接してある「国粋月間」になる(アー、ヤダヤダ)。ちなみに、現在の天皇誕生日は、絞首刑を宣告された東条英機らA級戦犯たち(すなわちヒロヒト天皇の身代わり)が処刑された日である(もちろん、偶然ではなく、当時の皇太子の誕生日を処刑日に選んで半永久的脅迫としたもの)。

3 人々の人権制限=政府の権力の強化

この文脈では、共謀罪法がやはり大きいですが、秘密保護法など多くの法律や政策が連ねられている。君が代・日の丸強制や沖縄へのヤマトの都府県警察機動隊の派遣と暴力による弾圧もこの文脈のこととってよいだろう。

今後、オリンピック反対運動や天皇代替わりに対する抗議行動に対する機動隊や公安警察の違法・暴力的弾圧が頻発することが予想される。政府内では、官邸周辺(首相、官房長官、首相側近)の実権が目覚ましく強化(独裁化)されている。

4 戦争体制の整備

自衛隊を憲法上の明文規定の根拠のある軍隊にするという企てと、自衛隊の米軍との一体化(実態は、隷属部隊化で、装備や指揮命令も徹底的に隷属した上、本国部隊の経費まで負担するという奴隷状態。弱体化しつつあるアメリカの軍事戦略に合わせて、辺野古・高江に新米軍基地、宮古・石垣などに自衛隊基地新設など、沖縄の一部などを中国との戦場、戦線と想定して軍備を行うに至ってはなさない限り。独立国の軍隊が他国の従属下にあること自体、

戦争に関する国際法の基本原理に反する)は、同時並行で進められている。装備や共同訓練の分野では、一体化した前線での作戦行動の準備もかなり以前から進んでいて、戦争法などの後方支援の法制化はその後追いでしかない。民族主義、国家主義の思想やイメージを振りまく宣伝をしながら、他国に卑屈なほど徹底した従属、隷属姿勢をとるのは、どう見ても矛盾であるが、植民地の政治家などが自分の政治的支持を確保しながら私腹を肥やすのに適したスタンスとして、古代から歴史的に愛用してきた策略ではある(例えば、イエスが出たころのユダヤ人国家がそれで、ローマ帝国に屈服しながら、ユダヤ民族主義を唱えたりしていたようだ。)

北朝鮮や中国の軍事的脅威を大げさに言い募る動きが政府とマスコミに多いが、本気で一戦交えるつもりなん？ それとも、軍事的緊張を高めることで政治的支持を得たり、軍事予算を増やす口実にしたるだけ？ いずれにしても、多くの民衆の犠牲により、ごく少数の者がいい目に遭おうというからくりでしかない。ヤレヤレ。

5 改憲はイベントに乗ってやってくる

天皇元首化、人々の権利軽視、政府の権力強化、戦争体制作りを裏ワザ(解釈改憲、法律による改憲、天皇の発意による法改正、中間報告...)多用で、着々と進めているアベちゃんと愉快的仲間たちであるが、総仕上げとしての憲法の明文改正は避けて通れない。やはり、一番の難関は、国民投票で賛成多数により可決されるか否決されるかにあるという自覚はさすがにあるらしい。各種世論調査でも、特に9条辺りを変えることについては賛成が反対を上回りにくい傾向があり、現行憲法愛好家がまだまだ多い。したがって、「改憲、いいね♡」の宣伝、プロパガンダをして、国民投票可決で大丈夫という確信が持てなければ発議はできない。この宣伝には、有名人、文化人、芸能人、電通・博報堂、皇室関係者その他あらゆるもの総動員で、とりかかってくるであろう。改憲PRのイベントに対抗して、抗議行動、対抗PRイベントを考えなければ...

現在のタイムテーブルでは、2018年~19年に天皇代替わり、その後、新天皇ナルヒトの即位後初めての地方巡業の本格お披露目イベントが、2019年夏のあいち植樹祭だ。一本の「お手植え」の木を植えるために、たくさんのお金を使って...というインチキ天皇イベント(県主催)

である。新聞報道によると、マリー・クリスチーナがこのイベントのイメージキャラとして起用され、<あなたの夢をあきらめないで>岡村孝子がイメージソングを作ること



を委嘱されている。全国の仲間と共に考え行動すべき「あいちの課題」であろう。

そして、2019年には、日本でG20首脳会議開催の予定、そして、2020年東京オリンピック(改憲は、2019年か2020年を目標としているらしい。)。多額のわいろを積んで開催地に決まったからには、スタジアムなどの建設とそれに伴う再開発で、神宮地域の大地主3社+某神宮(初もうで客が多いところらしい)がその利権でがっぽり儲かるように話が進められている。もちろん、各種商社、広告代理店、そして政治家の懐にもお金が入る。すべて、民衆から搾り取った金、だまし取った金だ、遠慮はするなというこ

とらしい。なお、オリンピックの金権まみれ、貧乏人追い出し、福祉切り下げて、開催自治体に多額の負債押しつけ...いいとこなしということがバレバレなので、反対運動が起こって、開催地に立候補できない、立候補しても取り下げに追い込まれるというのが最近の世界的潮流である。

2024年の開催地には、当初5都市が立候補したが、地元の反対や財政負担が耐えられないという理由で3都市が脱落し、残っているのはパリとロサンゼルス。反対を強権発動で抑え込む自信があり、金儲けのためなら何でもするという腐敗した大都市しか開催できないのだ。そこで、2024年をパリ、2028年をロスと2回分まとめて決めてしまえという異例の案がIOC側から提示されているという身もふたもない話が新聞に載ったのは記憶に新しい。

オリンピックもいらないぜ。やめようぜ。

核兵器禁止条約の122か国の賛成による採択を祝して筆を置く。